

平成26年度第2回豊田市図書館協議会 議事録

日 時：平成26年11月14日（金）午後2時～4時10分

場 所：豊田市中央図書館会議室

出席者：豊田市図書館協議会委員 7名

豊田市中央図書館職員 7名

欠席者：豊田市図書館協議会委員 2名

【開会】

事務局：本日は、図書館協議会委員9名中7名の委員にご出席いただいております。豊田市中央図書館規則第18条第2項の規定では、協議会の会議は過半数の委員の出席により成立することとなっておりますので、本日の会議は成立していることをご報告いたします。

それでは、ただいまより平成26年度第2回豊田市図書館協議会を開催させていただきます。お手元の次第に沿って進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

はじめに、館長よりあいさつ申し上げます。

館 長：(あいさつ)

事務局：次に会長にごあいさつを頂きます。よろしくお願いいたします。

会 長：資料を見させていただいて、この図書館ができて16年が経つのかと、改めて思いました。16年前に図書館のあり方が示されてから世の中がずいぶん変わってきたのも痛感させられています。今回はそういうなかで新しい基本方針を作ろうということです。みなさんの幅広い意見を聞いて作っていかうということです。思ったことを言っていただくと良いと思っています。よろしくお願いいたします。

事務局：(資料確認)

それでは議事に入ります。議事の取り回しは会長にお願いいたします。

会 長：議事の取り回しは会長ということですので、務めさせていただきます。少しずつ区切って説明いただいて、それぞれ意見を出していただくということで進めます。それでは、事務局より説明をお願いします。

【議題】

豊田市中央図書館運営基本方針（案）について

事務局：（資料1 ページから7 ページについて資料に沿って説明）

会 長：ただいま説明がありました内容について、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

ネットワーク館は指定管理で運営しているということですが、そのことについて何か課題はありますか。

事務局：27の交流館は文化振興財団が指定管理者となっています。コミュニティーセンター3館はそれぞれ別の民間業者が指定を受けています。27交流館については、夜間は交流館全体をシルバー人材センターに再委託して運営しています。実際に窓口で業務を行う人が200名ほどになります。非常に多くの方が携わっており、指示の徹底、情報の共有が難しいという点があります。

会 長：サービスは均一に行われていますか。

事務局：指示事項は守られていますが、館の方針というものもあり、均一とは言えないところがあります。

委 員：図書資料の配布は図書館ですか。配置はどうですか。

事務局：図書資料は図書館が整備しています。配置については、基本は示していますが、実際の作業は館に任せています。年3回程度定期的に図書館から蔵書点検、図書整理に行きますので、その時にいろいろとアドバイスをしています。

委 員：昔、交流館に行ったときに、館によって配置が違っていてわかりにくいところもありました。最近はわかりませんが、ここで「連携」と言っていますので、全体として図書館が責任を持って統括的に指導したほうが良いと思います。

会 長：大きな課題としては出ていないということで良いですか。

館 長：指定管理ということで、仕様書で指示していますが、中央図書館と比べると徹底できていないところもあります。また、細かいところまで仕様書に落とせないこともあります。そのあたりをもう少ししっかりと書き込む必要があると思っています。

副会長：「社会情勢の変化を踏まえて」とありますが、平成10年の時の「情報化、国際化」という視点は、今回の新しい基本方針の中にどう反映されていますか。

事務局：「国際化」については触れていません。図書館で「国際化」というと外国語資料に関わることだと思いますが、外国語については幅が広がります。今後重点的に取り組む事項とは考えておりません。

副会長：そういうスタンスであるなら、それで良いと思います。

事務局：「情報化」については、平成10年の時とは想定をはるかに超えて進んでいると認

識しています。ただ、もう少し対応策で触れる必要があるかもしれません。

委員：「駅前図書館」のところですが、駐車場の問題を大きく捉えています。利便性もあります。その点をしっかり書いてアピールしたほうが良いと思います。そこをどう伸ばすかも重要です。

委員：関連したことですが、今日、愛環鉄道で来ました。駅からは「参合館」という案内表示があつて、「図書館」が目立っていません。市内の人は分かっているかもしれませんが、市外から来る人には分かりにくくなっています。どこかに図書館の表示を工夫したほうが良いと思います。駅前図書館というのが最近の流れとしてありますが、豊田市はその先駆けです。プラス面を強調して対応していただきたいと思います。

事務局：ここには駐車場問題しか記述していません。駅前の利便性について触れるように修正します。案内表示については、図書館だけでは対応できません。

会長：参合館の入り口あたりに図書館が何階から何階というのはありますか。

事務局：いちおう広告塔があつて、そこに出ていますが、なかなか気づきにくいかもしれません。

会長：図書館がどこにあるかという問い合わせはありますか。

事務局：たまにあります。多くは車でどう行けばよいかというものです。

委員：乳母車は来館できますか。

事務局：乳母車は、エレベーターに乗れば問題ありません。

委員：小さい子を連れてきたときに、乳母車をどこに置くかが問題になっている図書館があります。豊田はどうですか。

館長：ベビーカーに乗せて入ることは禁止していません。本を探すのに子どもを抱いてというのは難しいと思います。シルバーカーについてはお断りしています。

委員：関連ですが、乳幼児の託児というサービスを行っているところもあります。20代、30代の女性の利用ということ考えた時、有料でも良いですが託児できると良いと思います。ブックスタートは図書館の利用を勧めるものですが、その流れで託児サービスを位置付けることができます。

会長：岡崎にはありますか。

委員：岡崎は、市民活動分野の施設が併設されていて、そこに託児サービスがあります。図書館で上の子に読み聞かせをしているときに下の子を預かってもらうことができます。託児ボランティアがやっていますが、少し有料です。

会長：そういう施設を持った図書館は全国的には少ないですか。

事務局：少し事例が出てきたところでは。

委員：岡崎は複合施設で、そういうサービスをやりやすいということはあると思います。

会 長：それでは、次に進みたいと思います。説明をお願いします。

事務局：(資料8ページから12ページについて資料に沿って説明)

ちょっと長くなりますので、ここでいったん区切らせてください。

会 長：柱1の「知を介した人と人の出会いと交流」というのは、具体的にどういうことを考えていますか。

事務局：例えば、読書会を想定しています。ほかには、当館も昨年度から始めましたビブリオバトルもこれに該当すると考えています。

会 長：そういうことがあまりやられていないから今後取り組んでいくということですか。

事務局：そうです。

副会長：自分は地域のお寺で読書会をやっていますが、人が集まってきます。図書館でも可能性はあるかもしれません。

事務局：読書会などは、本来、地域でやられるものかもしれませんが、図書館で開催することは、そこに司書が入ってアドバイスしたりすることで意味があります。また、読書会をやっている人たちが集まって発表会をするなど、図書館ならではの取り組みができると考えています。

副会長：全国的に取り組んでいる団体もあります。参考にしてください。

事務局：後で出てきますが、いろいろな団体と連携することにより、いろいろと可能性が広がります。方向性として大事なことであると考えています。

会 長：それに対するハードというと、そういう場を作るということですか。

事務局：そうです。

会 長：いまの図書館だと、どこが考えられますか。

事務局：例えば3階入り口のスペースがあります。ちょっと工夫が必要になりますが。

会 長：ホールでもいいですね。

委 員：予約しなくてもちょっと使えるスペースがあるといいですね。

それから、すこし話がずれますが、「知を介して」というのは司書がキーになります。豊田には理系の人もいっぱいいるので、そういう人たちにおいて理系のテーマで何かやってもらうことも良いと思います。いま展示もやっていますが、もう少し専門的なことをテーマにすることも考えたらどうでしょう。休みならサラリーマンの方も参加できます。そういうことをコーディネートするのが司書となります。そういうことを期待したいです。

会 長：ほかに何か可能性はありますか。

事務局：豊田は技術を持った人が多くいます。そういう人たちとネットワークを構築することにより可能性が広がっていくと考えています。

委 員：会社のほうもそういうものを支援するシステムができているところもあります。

そういうものを利用した講座などに興味を持つ人も多いと思います。「知を介して」

を広い意味に捉えていろいろと取り組んでいただきたいと思います。

委員：いま3階の入り口に美術館の店がありますが、いつものものと違うものがあると、いままで来なかった人も来て出会えるということで、良いことだと思いました。

会長：逆に言うと、図書館も外へ出るといいということになります。そのあたりはどうですか。

事務局：図書館が外へ出て行っているのは、出前講座をボランティアさんの協力で行っているのと、学校ですか。

事務局：学校にボランティア養成講座の講師を派遣しています。

事務局：あまりやっていないと言えます。例えば、交流館へ図書館が出かけて行って、何かやるということもあるかと思います。ただし、交流館の行う分野まで踏み込むこともできないので、調整が必要となります。できるなら積極的に出ていきたいと思っています。

委員：美術館のコーナーがここにあることはすごく新鮮です。ここを見ると、美術館に行ってみようという気になります。逆に言うと、美術館に図書館の何かがあると美術館には行くが図書館に行かない人が図書館に行ってみようかという気になります。以前、刈谷の美術館の絵本原画展に行ったときに、そこに図書館の本が並べてありました。隣ということもありますが、そのあと図書館にも行ってみようという気になって行ってみました。この連携が素晴らしいと思いました。図書館で図書館のPRをしていても意味がありません。スポーツ施設や自然観察の森、消防など、違うところに足を運んでいる人たちにアピールするといろいろ広がっていくと思います。

会長：美術館が閉館して図書館にプラスだったかもしれませんね。

事務局：確かに新鮮な感じがします。「驚き」があるかもしれません。

委員：いつ来ても同じというのは魅力を欠きます。展示の工夫を少し変えるだけで働きかけられていると感じます。

会長：図書館ももっと外に出る必要があるということですね。

委員：「心安らぐ知的空間」はどのように理解すれば良いか、イメージが湧きません。

事務局：市民アンケートの中で、子ども連れの方は多少騒いでも良いようにしてほしい、本を静かに読みたい方はそれがうるさいと感じていることがわかりました。また、学生がよく利用する席も結構うるさいといわれる方もあります。学生はしゃべりたいのかなと思いますが、これがクレームになります。これは、もう分けるしかないと考えています。分けている図書館もあります。実際に分けようとするとも費用も掛かりますので、すぐに実現することは難しいですが、方向性として考えていきたいと考えています。

会 長：限られた条件の中でやっていくということですね。

会 長：それでは、次に進みたいと思います。説明をお願いします。

事務局：(資料13ページから16ページについて資料に沿って説明)

副会長：言語活動というのは、簡単に言うと、「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4つを指しますが、読書というと「読む」だけの印象があります。一時はスピーチが盛んに強調された時代もありましたが、今は「書く」ことができないということが指摘されています。ですので、総合的にとらえてこの言葉を使っていたのは良いことだと思います。

もう一つは、「人間力」ですが、今は教育関係者の間では「生きる力」と表しています。どちらの言葉が適切か少し検討したほうが良いと思います。

事務局：検討します。

会 長：あと、「子ども」と「子どもたち」と2つの言い方がありますが、これも使い分けが混乱していると思います。

事務局：見直します。

会 長：それでは、次に進みたいと思います。説明をお願いします。

事務局：(資料17ページから21ページについて資料に沿って説明)

委 員：市民との「共働」というのはどのように理解すれば良いですか。

事務局：豊田市ではわざと「共働」という言葉を使っています。これは、市民と行政がただ一緒になって何かするというものではなく、お互いが得意とするところはそれぞれが責任を持ってやっていくということです。図書館に当てはめると、市民のみなさんが自主的に生涯学習活動をやられる、それを図書館は支援する、そしてそれが豊田の文化の発信に繋がっていくという考え方です。

委 員：ボランティアにも新旧交代がありますが、レベルがバラバラであったり、ボランティア自身も自分のレベルに不安を持っていたりしています。この方針の策定でボランティアから意見を聴く会を開いていただきましたが、こういうことを重ねていくと、いま申し上げた不安なんかも解消できます。ぜひ継続していただきたいと思います。

委 員：ブックスタートが読み聞かせボランティアの中で出てきますが、これは認識が間違っています。ブックスタートは読み聞かせ活動ではなく、絵本を介した親子の交流と、それを通して図書館と保護者を結びつけるものです。

委 員：こども図書室と児童コーナーは、自分としては違いが明確ですが、一般的には理

解されていないことがこの表現でよくわかりました。一般の方にもこの辺りをよく理解していただけると良いと思います。共働してこども図書室が良くなっていくと良いと思います。

会 長：こども図書室について何かありますか。

事務局：市域が広いので、遠いところの方から見ると同じようなものがあるように見えると思います。市民の方にその違いを広く理解していただく必要があります。こども図書室の運営は、基本的な方向は図書館が決め、実際の運営はボランティアの皆さんが中心となって行っているということで、図書館の中でも特に共働がうまくいっている部分だと考えています。その点もうまくPRしていきたいと思います。

委 員：こども図書室は人材のレベルの高さが大きな特徴だと思います。学校の読み聞かせボランティアの問題が先ほど出ていましたが、こども図書室の人材を活用することも必要かもしれません。

会 長：こども図書室と児童コーナーが「近い」ということが書いてありますが、「近い」は読む人によって印象が違います。もう少し具体的に表すほうが良いと思います。

委 員：こども図書室の本は、図書館が管理しているのですか。

事務局：選書はボランティアさんが行い、図書館が購入しています。

委 員：こども図書室の本は交流館では返せないと聞きましたが。

事務局：交流館等と中央図書館はネットワーク化されていて、どこでも借りられ、どこでも返せます。こども図書室は、いまデータ化を進めていて、これが完了すると交流館等と同じようにできるようになります。ただ、それを実現するのが良いのかどうかの検討を子ども読書活動推進協議会でも検討していただくことになると思います。このときボランティアのみなさんとも相談させていただきます。

委 員：いまは、こども図書室の本はこども図書室に返していただいています。稲武からも来ていただいています。こども図書室の良いところは、利用者と直接コミュニケーションをとっているところです。返しにみえたときに感想を聞いたり、次の本の紹介もできます。その子の成長に合わせた本の紹介もできます。こういうことを大事にしていきたいと思っています。

委 員：学校の読み聞かせボランティアの研修会に参加した人は、良い研修だったといっていました。参加人数が限られていますので、回数を増やすと良いと思います。

会 長：ニーズがあるということですね。

事務局：中央図書館に登録のあるボランティアさんに対してはいろいろ講座を開いていますが、学校に対しては手薄だと感じています。学校を中心に活動していただいているボランティアさんは実態把握もできていません。まず実態把握から始めたい

と考えています。

委員：今後、高等学校への支援も強めていただけるということでありがたいと思いますが、高等学校の図書室は手が入れられておりません。本校では国語科の教員が片手間にやっているという状況です。ぜひ支援をお願いしたいと思います。

会長：県立、私立の高校への支援は難しい点もありますが、小中学校への司書の配置は非常に大きな効果がありましたので、高校にも入ると良いですね。県からの支援はどうですか。

委員：いまのところありません。

会長：本来は高校から県のほうに声を出してもらう必要もありますね。高校生が本を読まないのは、スマホの影響もありますが、そういうところも関係があるかもしれませんね。豊田市にある高等学校への支援もこの方針にうたってあるので、ぜひできるところから進めていただきたいと思います。

会長：「テレビを消して本を語ろう」の日というの、学校との連携があまり取れていないと感じていますが、実際のところの把握はしていますか。

事務局：子ども読書活動推進計画を策定したときに、抽出校へのアンケートを実施しています。次の見直しの時にもアンケートをしたいと考えています。

事務局：関連ですが、いま、来年度から新1年生への「親子読書ノート」の配布を準備しています。ブックスタートから始めて、次のステップとしての位置づけで、楽しく取り組めるものとする予定です。

会長：それでは、次に進みたいと思います。説明をお願いします。

事務局：(資料2 2ページから25ページについて資料に沿って説明)

会長：インターネットでは、この図書館のどういう情報が得られるようになっていますか。

事務局：イベント、蔵書の検索などです。

館長：利用登録していただければ予約もできます。

会長：ネットから登録はできますか。

館長：登録には来館していただく必要があります。

委員：ボランティアは女性が多くて男性が入りにくいと感じられることも多いようで、シニア世代の社会参加は、男性にも配慮していく必要があります。読み聞かせは健康にも良いという本も出ていまして、そういう意味も含めて男性の参加を促す工夫があると良いと思います。豊田市が先進的に取り組んでください。

委員：ビブリオバトルも、各交流館で予選を行って、決勝を中央図書館でやるというのもどうでしょうか。地域での盛り上がりも出てくると思います。あと、子どもの発表を聞いていて、お母さんが読んでいてそれを選んだとその子が言っていて、家庭での読書環境の大切さをあらためて感じました。また、ビブリオバトルを通して子どもの言語活動能力が育っていくという面もあるとも思いました。ただ、このイベントに対してアンケートなどがされていないようです。より良くするためにも、ぜひアンケートなどを実施してください。

会長：ビブリオバトルについて説明してください。

事務局：日本語で言うと、「書評合戦」といえると思います。発表者が読んで良かった本を観覧者の前で発表して、観覧者は自分が一番読みたいと思った本に投票して選ぶというものです。

委員：80代の方の利用も増えているようですが、ユニバーサルデザインには配慮されていますか。

館長：あまり配慮できていません。新たに設計しなおすときがありましたら、そこで対応したいと思っています。

会長：では、ほかにご意見がないようですので、これで私の役割は終わらせていただきます。

事務局：6月の第1回協議会において、10月に具体的な施策もお示しするとしていましたが、今回は準備ができませんでした。今年度中に基本方針を決定し、来年度具体的な施策をまとめることとしますので、ご了承をお願いします。

事務局：多くの貴重なご意見をありがとうございました。以上で第2回豊田市図書館協議会を終了いたします。